

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和5年(2023年)1月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2023 1 月号
通算212号

新年のご挨拶

院長 ^{すぎた}杉田 ^{ひろき}裕樹



明けましておめでとうございます。

2020年から新年のご挨拶を書かせていただいております。今年で4度目になります。毎年予測不能な出来事が発生しますが、昨年は、2019年末からのCOVID-19パンデミックに加えてロシアの

ウクライナへの侵攻、安全保障問題、物価上昇、円安問題などが新たに発生しています。

2024年4月から医師の働き方改革が開始となります。医師の労働環境が改善されることは大変良いことですが、限られた医師の労働力をどう確保するかについて大きな問題となっています。当院においては休日夜間急患センターの医師の確保が喫緊の問題であり、当センター開院依頼40年余りの間行われてきた熊本方式は危機に瀕しているといっても過言ではありません。COVID-19パンデミックの影響から大人の内科・外科診療に関しては2020年10月から現在まで深夜帯については休止しておりますが、小児科の深夜帯は現在も継続しており、現時点におきましても小児科医師の負担が大きいのが現状です。休日夜間急患センターはCOVID-19パンデミックとなって受診患者数が激減し一時期は以前の1/3程度まで落ち込んだこともあります。昨年より徐々に回復傾向にあります。今後パンデミックが収束した場合には再び以前の様には戻らないまでも、受診者数が増加する可能性があると考えています。休日夜間急患センターは、熊本市内は元より市外の患者さんも多く受診しており、その役割は今後も大きいと考えられます。2025年の地域医療構想においての当センターの役割の大きな柱としているのは、急患センター・小児医療の継続とがん拠点病院として責務を果たすこととしておりますので、休日夜間急患センターの堅持は大変重要です。

当センターの病院建て替えについては、昨年10

月に設計施工会社を公募し、現在選考中です。計画では2023年1月に設計施工会社を決定し、その後すぐに設計・施工を開始、2025年秋に竣工予定です。当センターはその時に現在の227床から204床となる予定です。計画では現在病院の大部分の機能が集中している本館を現在の第5駐車場に建て替え、現在の新館は残ることになっています。病院建築に当たっては前出の物価上昇や半導体不足等の逆風の中進んで行かなくてははいけません。COVID-19のためにこの約3年間足踏み状態でありましたので、前進あるのみと思っています。

また今年には5年ぶりに病院機能評価機構の受審も予定しています。これを良い機会としてもう一度院内のシステムを見直し、改善したいと思っております。すでに職員一同着々とその準備を行っているところです。

COVID-19については2022年オミクロン株が主体となり感染力は増したものの弱毒化していると考えられており、政府も2022年秋からウイズコロナの方向に舵をとっています。また、オミクロン対応のワクチンの接種を促進すると共に現在感染症法上の分類を2類から5類に下げる議論が行われております。しかしながら2022年12月上旬この原稿を執筆している時点で、2022年末から2023年初め頃にはCOVID-19に加えてインフルエンザ感染者数も多くなることが予想されており、これらの対策が必須の状態、もう一山ありそうです。本年はCOVID-19が普通の風邪のような扱いになり、病院における面会制限をはじめとした感染対策の緩和、職員の行動制限の緩和ができるようになって欲しいと心から願っております。

このところ我慢を強いられる年が続いていますが、昨年はサッカーW杯で日本代表が強豪国を破るなどの勇気をもらえるニュースがありました。本年が皆様にとって良い年となりますようにお祈り申し上げます。本年も当センターをどうぞよろしく願い申し上げます。

～アレルギー診療センター～

アレルギー診療センター センター長 ^{にし}西 ^{なつこ}奈津子



熊本市医師会の先生方には平素より大変お世話になっております。今回はアレルギー診療センターにつきましてご紹介申し上げます。平成25年から小児アレルギー外来を開設、平成29年にはアレルギー専門医教育研修施設として認定されました。令和元年からは呼吸器内科、皮膚科、小児科が連携したアレルギー診療センターを開設し、主に食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎の診療を行っております。このアレルギー診療センターは医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士と多職種のスタッフで構成されており、相互連携を図り診療を行っています。

疾患の中では小児食物アレルギーの割合が最も高く、新規患者では離乳食期～2歳までのお子さんが大部分を占めています。この時、診療にあたって管理栄養士の役割は大きく、成長期に除去食が必要なお子さんに対して代替食のあり方や不足しがちな栄養素の補給方法についての指導を行っています。また、私たちは熊本地震の折に食

物アレルギー患者は災害弱者となることを実感いたしました。この経験を活かして、管理栄養士は災害に備えた食料備蓄についてもアドバイスを行っております。このように医師ではカバーできない面で多職種のサポートが得られることは大変大きなメリットだと考えています。

もう一つの当センターの強みとしては、小児から成人期への移行医療が円滑に行えることが挙げられます。近年のアレルギー疾患ガイドラインでも「移行期医療」が重要視され、よりページを割くようになってきていますが、成人アレルギー専門医は少なく、先生方も対応に苦慮されることもあるかと存じます。当院では呼吸器内科の津村医師がアレルギー専門医として常勤しており、気管支喘息や食物アレルギー患者の成人医療へのバトンタッチをスムーズに行うことができます。ただ、現在アレルギー診療に携わる内科医が1名のみであることから年々負担が増加する懸念があり、アレルギー専門医の資格を持つ内科医師の育成が急務と感じております。

日々課題に取り組みながら地域医療に貢献してまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

日々課題に取り組みながら地域医療に貢献してまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2023年1月23日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
 オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com (※1) まで (※1) 申し込みアドレス
 メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。
 人数制限によりご案内できない場合がございます。
 ※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。



①症例報告

『急速な増大を認めた多発肝血管腫の1例』
 外科 小野 明日香 医師

②特別講演

『安定冠動脈疾患における治療方針について』
 CC42：胸痛
 循環器内科 平田 快紘 医師

わかりやすい 部門紹介

～新館4階病棟～

新館4階病棟師長 くろき 黒木 ようこ 葉子



新館4階病棟は緩和ケア病棟として14床が稼働し、院内外の終末期がん患者様を受け入れています。

緩和ケア科の安部医師をはじめ、看護師12名（緩和ケア認定看護師1名）、公認心理士、理学療法士など多職種が配置されています。当センターの緩和ケア病棟では、「限りある時間を可能性のある時間へ」という病棟理念を掲げ、患者様やご家族の希望やその人らしく生きる事を支えたいと考えています。

今回の部門紹介では、コロナ禍における緩和ケア病棟の現状について2点お伝えしたいと思います。

1つ目は、緩和ケア病棟における面会についてです。コロナの流行により、全国的に緩和ケア病棟で行われるべき患者と家族の抱える多様な問題と希望に応じたケアを行うことが困難となっています。当センターでも面会制限が余儀なくされ、患者様にとって闘病の支えとなるご家族が側に付き添えない状況になりました。そのような中でも、当センターでは前述した病棟理念に基づき、十分な感染対策を講じながら面会を受け入れています。看護師は、人数と時間に制限のある面会がより有意義なものとなるよう、綿密な業務スケジュールを組み、面会者への対応を行っています。幸い棟内でクラスターなどの発生はなく、ご家族からは

「コロナ禍でも、看取りまでの間に十分な面会が出来て良かった」などのお言葉を頂きました。遺族調査においても、コロナ禍の面会に対する満足度は全国平均を上回る結果となりました。

2つ目は、イベントや遺族会についてです。昨年度から少しずつではありますが、入院中の患者様にとって貴重な記念日や、季節のイベントなどをご家族の面会の日時に合わせて開催しており、安らぎの時間を提供できる喜びを実感しています。また、今年度は3年振りに遺族会を再開することが出来ました。来院されたご家族から「この会に来るまでの1年間、気持ちを話せる場所がなく自死を考えるほど辛かった」という言葉を聞き、コロナ禍においてご遺族の方々が集う場がほとんどなく、悲しみを分かち合う事が出来ずに孤独に過ごされていることを知りました。この事からも、遺族会を再開した事に意義はあると感じました。これからも、with コロナの考えのもと、緩和ケア病棟のあるべき姿を取り戻しながら患者様やご家族と真摯に向き合い対応していきたいと思えます。

最後になりますが、緩和ケア病棟は開設から20年以上が経過しました。時代と共にハード面で求められるものが変化しています。少しずつ備品等をリニューアルし、患者様にとってより過ごしやすい環境を整え、選ばれる緩和ケア病棟にしていきたいと考えています。無論、設備面だけでなく、どのような状況においても、看護部理念である「患者とともにある看護」を実践し続けたいと思えます。



熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら

☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします！

(平日9:00~17:00)

☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y しばらく前より勉強会はハイブリッド形式で再開していました。最近では、防火訓練・緩和ケアに関する研修会なども再開しています。新病院建設計画も再開し、「わかりやすい」熊本地域医療センターへの努力を続けて参ります。

K 先日、揚げないカボチャコロケが夕食に。少し重たいなあと思いながらも食しました。大量にあり、翌日、息子たちのお弁当に。「アレはお弁当にはきつかった」と物申す始末。隣にいた娘が超不機嫌。息子達は、娘作とは知らず、一瞬にして凍り付いたのでした。

H 新年あけましておめでとうございます。思い返せばあっという間の一年間でした。2022年は沢山の出来事があり、何かとバタバタしていたからでしょうか。ちなみに2023年の抱負はバイクの免許を取ることです!!

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

新年のご挨拶	P 1
わかりやすい診療部紹介 ～アレルギー診療センター～	P 2
わかりやすい部門紹介～新館4階病棟～	P 3
消防訓練を行いました	P 4

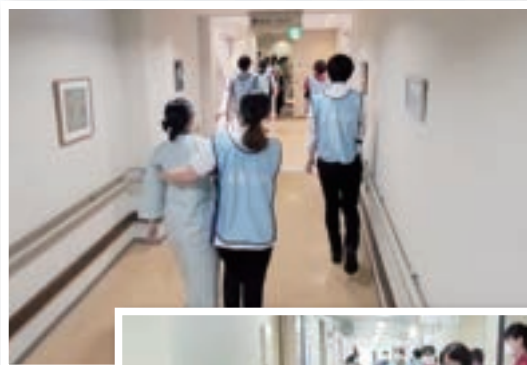
消防訓練を行いました

災害対策・病院機能危機管理委員会 **すぎもと 杉本** **りえ 理恵**

2022年11月18日 約2年ぶりに院内消防訓練を実施しました。コロナ禍となつてからはオンラインでの訓練であったため、久しぶりの実践形式の訓練に委員会メンバーは準備段階からはりきって臨みました。

今回の訓練には初めて参加するスタッフが多く、患者役もスタッフ役も緊張感が高まる中、訓練が始まりました。夜間を想定しての訓練であり、火元はスタッフ休憩室の設定でした。火元を見つけるまでに時間を要し、初期消火の失敗の合図が出ると、一気にたくさんの応援スタッフが押し寄せました。指揮をとるリーダーは困惑しつつも、応援スタッフに声を掛けながら、全患者の避難を完了することができました。逃げ遅れの患者さんが発生せず一安心したところでした。

今回、実践形式での訓練は、オンライン研修では味わえない学びが多くありました。普段は顔を合わせることが少ない多職種でも、一丸となつて力を合わせ、何かをするのはやっぱりいいものです。地域医療センターの職員全員が、災害に対する意識が高まり、いざというときに力を合わせて対応できるように今後もよりリアリティのある消防訓練を企画していきます。



第117回 熊本緩和ケアカンファレンス 熊本地域医療センター緩和ケアに関する研修会

日 時 / 2023年1月26日 (木) 18:30~19:30

形 式 / オンライン形式 (ZOOM)

テ ー マ / 全人的苦痛がある中で患者の希望を実現できた事例
～AYA世代の患者との関わりで感じたジレンマを通して学んだ事～

対 象 / 熊本県内の医療・介護関係者

参加方法 / 事前申し込み不要

問い合わせ先 / 熊本地域医療センター MSW 村上

※詳細につきましては、[当院ホームページ「当院からのお知らせ」](#)をご覧ください。



※「当院からのお知らせ」
アクセスQRコード